

公益社団法人 地盤工学会
基 準 部 会
 平成 25 年度第 4 回 議事録

日時	平成 25 年 11 月 19 日 (火) 14:00~17:00					場所	地盤工学会 会議室	
部長	竹下 祐二	○	★理事	佐藤 毅	○	幹事	仙頭 紀明	○
★部員	坂井宏行(代理)	◎	部員	伊貝 聡司	○	部員	長田 昌彦	×
部員	斉藤 和則	×	部員	高柳 剛	×	★部員	浜田 英治	○
部員	平井 貴雄	×	部員	藤原 照幸	×	★部員	峯岸 邦夫	○
部員	吉嶺 充俊	×	オブザーバー	中川 直	○			

★：H24 年度新任 ○：出席予定 ☆：出席（電子会議） ◎：代理出席 ×：欠席予定 △：未定

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料-25.4.0	平成 25 年度 第 3 回基準部会議事録案
資料-25.4.1	平成 26 年度事業方針・事業計画及び予算案（第 1 次）－10 月 28 日提出版
資料-25.4.2	旅費支給規程に関する申し合わせ事項案
資料-25.4.3	地盤 JIS 用語の選定方針（案）
資料-25.4.4	基準部規程第14条の修正案
資料-25.4.5	会員からの質問（Q&A 集）の HP アップについて（案）
資料-25.4.6	新規制定基準案「JGS 1XXX 動的コーン貫入試験方法」基準案
資料-25.4.7	新規制定基準案「JGS 1XXX 動的コーン貫入試験方法」公示文
資料-25.4.8	新規制定基準案「JGS 13XX 単孔を利用した地下水流向流速測定方法」基準案
資料-25.4.9	新規基準化 WG「不飽和地盤における原位置飽和透水試験方法（仮称）」設立趣意書
資料-25.4.10	地盤調査関係基準の英訳作業順序リスト
資料-25.4.11	「地盤材料試験の方法と解説」増刷検討書
資料-25.4.12	平成 25 年度地盤工学会賞（地盤環境賞）候補推薦書「地盤環境スクリーニング技術の開発と国際標準化」
資料-25.4.13	理事会（H25/9/27, 10/23（書面会議））開催報告資料
資料-25.4.14	第 49 回地盤工学研究発表会（北九州大会）DS テーマ提案書
資料-25.4.15	室内試験規格・基準委員会 H25 第 1 回幹事会（10 月 24 日開催）報告資料
資料-25.4.16	地盤調査規格・基準委員会 H25 第 2 回委員会（11 月 5 日開催）報告資料
資料-25.4.17	地盤調査規格・基準委員会所管 WG 構成【WG9～WG14】
資料-25.4.18	地盤調査規格・基準委員会 会員からの質問に対する回答
資料-25.4.19	調査研究委員会企画案「低透水性土質材料の活用と施工管理技術に関する研究委員会－主にベントナイト及びその混合材料の場合－」
回覧資料	日本工業標準調査会 第38回土木技術専門委員会（11月11日開催）報告資料

審議事項

1. 前回議事録の確認

(資料-25.4.0)

前回議事録を承認した。

2. 全体関係

(1) 平成 26 年度事業計画・事業方針及び第 1 次予算案

(資料-25.4.1)

第 1 次予算案の具体的な内容について事務局から報告があった。

理事会予備審議 基準英訳の緊急性について

(2) 平成 25 年度基準部の活動について (継続)

① 中期目標における基準の英文化に関する、地盤工学としての戦略に関して

基準の英文化とその公開について議論を行った。

(背景) 学会で予算化して基準の英文化を行っているが、年間で英文化できる基準の数が限られており、すべての作業が終了するまでに時間がかかり過ぎるという問題がある。海外で日本の基準を積極的に活用してもらうためには、まず海外で広く知ってもらうことが必要である。そのためにも、国際戦略の一環として基準の位置付けを明確にする議論も必要である。これから数年間は赤本・青本改訂作業の閑散期にあたり、長期的には今の時期に基準英訳に積極的に取り組むべきである。

それらを踏まえて、以下の方針が議論された。議論した内容を踏まえて、理事会予備審議にかけることとなった。

・基準の英文化は、できるだけ速やかに完了させる。

・期間短縮にかかる費用を捻出するため、外部資金の導入を積極的に行う。

例) 基準の英訳に賛同いただける会社等からの寄付、冊子化した時の広告費、関連機関(国、民間)の研究資金・補助金等獲得に向けた応募等

・冊子化し、販売・配布する。(印刷費用についても外部費用でまかなうことを視野に入れる)

・英文チェックに対する現委員の負担が過度にならないように、基準作成・改訂に関わった前メンバーの協力を仰ぐ等の工夫が必要である。

・今後英訳すべき基準とその概算費用の把握。

② 試験基準の ISO 化に際しての確認事項に関して

③ その他

3. 委員等の異動

(1) 室内試験規格・基準委員会

(2) 地盤調査規格・基準委員会

(3) ISO 国内委員会

(4) 地盤設計・施工基準検討委員会

(5) 表記法検討委員会

(6) 技能試験実施委員会

(7) 部員の異動

4. ISO 国内委員会 関係

理事会報告 (1) 国際会議派遣 **すべてメール審議済**

① CEN/TC 341/WG 6 会議への出席

・行 先：マドリッド (スペイン)

・出張者：豊田 浩史 氏 (長岡技術科学大学, ISO 国内委員会委員)

・期 間：2013 年 11 月 1 日～11 月 8 日 (会議日：11 月 4, 5, 6 日)

・理 由：CEN/TC341/WG6 (Laboratory tests on soils：室内土質試験) において、12 の室内土質試験の ISO 規格の策定が行われてきている。日本は、これらの中で 11 の規格・基準を有しているため、会議において積極的に意見を発し、我が国への影響がないように対策を進めておく必要がある。今回は、第 10 回目の会議となるが、ISO 規格の今後の動向を把握し、必要に応じて国内委員会において対策を講じる。

・費 用：地盤工学会 ISO 対応費

② 油分向け比濁検出法の認証試験実施 (再試験)

・行 先：仏国・パリ、蘭国・ワゲニンゲン

- ・出張者：坂井グループ・リーダー（J R総研、ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）—convenor、議長職）
 - ・期 間：2013年11月3日～8日の6日間
 - ・理 由：日本（地盤工学会）からISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）へ提案している「油分向け比濁検出法」について、2013年8月に蘭国・ワゲニンゲン大学で実施した認証試験にあっては、その結果を編入してCD投票することになっています。このうち、蘭国提供の標準試料については、試料の均一性について疑義が生じたため、認証試験を再実施（確認試験）することになりました。このため、関係委員を出張させるものです。
※ 認証試験実施日（出張期間）は、ただいま調整中です。
 - ・費 用：本件は、経済産業省支弁の補助金充当または旧重点TC振替いたします。
- ③国際連合食糧農業機構「土壌監視」会議出席
- ・行 先：イタリア・ローマ
 - ・出張者：(1) 坂井グループ・リーダー（J R総研、ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）—convenor、議長職）
(2) 野上委員（リガク、ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）—project leader、環境計測の専門家）
 - ・期 間：2013年12月3日～12月7日（予定）
 - ・理 由：現在、日本（地盤工学会）は、ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）を主導し、地盤環境向けのスクリーニングに関する規格案のうち2件をすでにISO化し、その他2件（比濁検出法（TA）およびCr(VI)向けテスト・キット検出法（Cr(VI)-TK））を審議中です。また、新規規格化わくのひとつである気候変動（CC）についても、スクリーニング法の規格化事業の一環として2件（有機炭素向け燃焼式赤外検知法（燃焼式IR）および水分向け屈折検出法（RF））をすでに内容提示し、2014年中に正規に提案する予定です。
ところで、国際連合食糧農業機構（FAO）では、日本主導のISO/TC 190/SC 3/WG 10新設当初から、ここでおこなわれている地盤環境向け各種スクリーニング技術のISO化事業に関心を示しており、同機構からも担当官1名が当WGに派遣され、世界の荒涼地の農地開発に寄与させるべく、連携を図ってきたところです。このたび、同機構から標題の会議を開催するにあたり、ISO/TC190（地盤環境）経由で、出席方の要請が当方にありました。そこで、ISO/TC 190/SC 3/WG 10でISO化され、また今後ISO化される続行案について、その内容や審議状況を説明し、当WGでISO化する技術の最大の使用者である同機構と今後のISO化計画について調整を図るため、関係委員を出張させるものです。
 - ・費 用：本件については、経済産業省支弁となっております。

総務部提案 （2）旅費支給規程に関する申し合わせの制定について **（資料-25.4.2）**

平成25年7月に改正された学会旅費規程により、学会からの要請を受けたメンバーがISO関連の国際会議に参加した際に、滞在費を一部自己負担していることが報告された。

そこで外部資金により行っているISO活動の旅費支給については、平成25年7月改正前の旅費支給規定を適用いただけるよう総務部に上申することとなった。

改正前 日当1300円、宿泊費9000円

改正後 日当0円、宿泊費実費精算（上限9000円）

5. 地盤工学表記法委員会 関係

理事会報告 （1）地盤JIS用語の選定方針（案） **（資料-25.4.3）**

JIS用語の選定方針を承認した。参考として用語の選定結果（229語）が示された。（今後表記法委員会で議論を行って、増減する可能性有り）

理事会審議 （2）基準部規程第14条の修正 **（資料-25.4.4）**

規程第14条の修正案を承認した。この修正は地盤工学表記法委員会の業務内容の実態と整合をさせるためである。

6. 室内試験規格・基準委員会 関係

（1）会員からの質問（Q&A集）HPアップ（素案） **（資料-25.4.5）**

会員からの質問（Q&A）集をHPに掲載することとなった。掲載にあたっては、個人情報削除すること、室内試験、地盤調査委員会で同様の形式で作成すること、基準部で確認・承認したものを公開することとする。

公開方法（HPへのページの追加等）については、事務局と協議する。

7. 地盤調査規格・基準委員会 関係

- 理事会報告** (1) 新規制定基準案「動的コーン貫入試験方法」
 ・基準案 **メール審議済** (資料-25.4.6)
 ・公示文 (資料-25.4.7)
 修正意見への対応、公示文について承認した。
- 理事会報告** (2) 新規制定基準案「単孔を利用した地下水流向流速測定方法」 (資料-25.4.8)
 基準案を承認した。
- (2) 基準の英訳 (資料-25.4.9)
 英訳の進捗状況について報告があり、確認した。
- 理事会報告** (3) 新規基準化 WG の設置「不飽和地盤における現場飽和透水係数の測定方法（仮称）」 (資料-25.4.10)
 基準化 WG の設立を承認した。

8. 地盤設計・施工基準委員会 関係

9. 技能試験実施委員会 関係

10. 基準部所管刊行物

- 理事会報告** (1) 地盤材料試験の方法の解説 **メール審議済** (資料-25.4.11)
 ①増刷部数：800部
 ②理由
 ・本書は2009年発行であり、改訂までにあと4～5年の時間がある。
 ・本書の単年度販売数は300～400部で推移しており、今後もこのまま推移する見込みである。
 ・500, 800, 1000部の見積りを取り比較したところ、500部では、各印刷見込部数間の純益額に開きがあり、できる限り多く印刷できれば良いが、1000部であると4年程度、もしかするとそれ以上の年数の在庫を抱えることとなるので、避けたいと思われる。

11. その他

- (1) 平成25年度地盤工学会賞（地盤環境賞）候補推薦 (資料-25.4.12)
 ・業績名：地盤環境スクリーニング技術の開発と国際標準化
 ・受賞候補者名：地盤工学会基準部 ISO 国内委員会 TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG
 竹下部長より、ISO 国内委員会 TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG の業績を H25 年度地盤工学会賞（地盤環境賞）の候補に推薦したことが報告された。

報告事項

1. 理事会（H25/9/27、10/23（書面会議））開催報告 (資料-25.4.13)
 ISO 国内委員会 坂井宏行氏が「経産省 国際標準化貢献者表彰」を受賞したことが報告された。
 基準の英文化に関する理事会報告の結果が報告された。国際戦略の一環として取り組むこと、JGS 理事会の審議事項に相当すること等、英文化の重要性が理事会でも認識されたことが報告された。関連して、「土質試験 基本と手引き（第二回）改訂版」を英文化する動きがあることが報告された。
2. 全体関係
3. 部会・委員会関係
 (1) ISO 国内委員会

理事会報告 ① 平成25年度 ISO 対応活動費の資金援助要請に関する経過報告

(相手先)	(金額)		報告書の有無	(納期)	
	助成	受託			
・土木学会	100万円		○		
・三菱総合研究所（回答作成）	40万円		○		
・三菱総合研究所（旧重点TC旅費）	100万円		○		
・日本建設業連合会	50万円		○		
・ISO/TC190 関係（研究委託）	50万円		○		

・三菱総合研究所（国際標準開発事業）		450 万円	○		
小計	340 万円	450 万円			
合計	790 万円				

② 第 49 回地盤工学研究発表会 DS 開催

テーマ：地盤工学会における基準の国際化対応 (資料-25.4.14)

DS 開催希望に関するアンケートが報告された (資料のみ)。

(2) 地盤工学表記法委員会

(3) 室内試験規格・基準委員会

① H25 幹事会開催報告 (資料-25.4.15)

H26 年度には新規基準化検討 WG の設立の要望がないことが報告された。H25 年度基準の英訳状況が報告された。

② 新規基準の小冊子作成について

・室内の 3 基準について先に作成することで地盤調査委員会と調整済

(4) 地盤調査規格・基準委員会

① H25 第 2 回委員会 (11 月 5 日開催) 報告 (資料-25.4.16)

基準の英訳のチェック方法について報告があった。あいまいな表現の厳密さを必ずしも求めないこと、ネイティブチェック (再チェック) は行わないことが報告された。これに対し、特に反対意見は上がらず、JIS 格上げのタイミングで厳密化すればよいとの意見があった。

② WG の構成 (WG9~WG14) (資料-25.4.17)

WG 委員の構成が報告された。

③ 会員からの質問と回答 (資料-25.4.18)

平成 25 年度の会員からの質問と回答 (3 件) について報告があった。会員からの質問と回答を HP にアップすることについては室内試験規格基準委員会と足並みをそろえて公開する方向であることが報告された。

(5) 地盤設計・施工基準委員会

(6) 技能試験実施委員会

(7) 販売促進 WG

(8) 英文HP

(9) 技能試験実施 WG

・参加機関 55 機関

・試験結果の報告期限：9 月 20 日 (金)

・「技能試験結果報告書の配付：平成 26 年 1 月上旬」に向けて試験結果の整理中

(10) 調査研究委員会企画案 (地下水関係) (資料-25.4.19)

調査研究委員会の「低透水性土質材料の活用と施工管理技術に関する研究委員会」でベントナイト及びその混合物の透水性評価のための試験法を研究することが報告された。予定では H28 年度に基準化検討 WG 設立を考えている。

4. 日本工業標準調査会 土木部会

・第 38 回土木技術専門委員会

(回覧資料)

●H25 年度 基準部関係委員会開催状況

委員会名		委員会開催日, 太字は次回開催日
基準部会	竹下 祐二	5/7, 7/2, 8/27 幹事会, 9/17, 11/19
ISO 国内委員会	大谷 順	6/21, 8/23 幹事会
・WG1 ISO/TC182 対応	木幡 行宏	・
・WG2 ISO/TC190 対応	和田信一郎	・
TC190/SC3/WG10 対応 WG	坂井 宏行	6/7, 7/27, 8/27, 9/2, 10/7, 10/22, 11/12, 12/11
・WG3 ISO/TC221 対応	宮田 喜壽	

室内試験規格・基準委員会 ・WG1 物理特性 ・WG2 化学特性 ・WG3 透水・圧密特性 ・WG4 力学特性 ・WG5 安定化・締め固め特性 ・WG6 ジオシンセティックス ・WG7 ベンダーエレメント試験基準化 ・WG10 「土質試験-基本と手引き-」改訂編集 WG ・WG12 岩石の繰返し強度試験方法基準化 WG ・WG13 岩石および岩盤の一軸引張り試験方法基準化検討 WG ・WG14 過酸化水素水を用いた pH 試験方法基準化検討 WG	川崎 了 (小口秀俊) (乾 徹) (大向直樹) (塚本良道) (安部哲生) 椋木 俊文 山下 聡 大島 昭彦 伊藤 洋 谷 和夫 川地 武	7/19, 10/24 幹事会 6/ 7, 9/19, 20, 12/20 4/19, 10/2, 12/4
地盤調査規格・基準委員会 ・WG1 物理探査・検層(第3編) ・WG2 ボーリング・サンプリング(第4,5編) ・WG3 地下水(第7編) ・WG4 サウンディング(第6編) ・WG5 載荷試験(第8編) ・WG6 現場密度試験(第9編) ・WG7 現地計測(第10編) ・WG8 環境化学分析のためのサンプリング(第11編) ・WG9 地盤調査の計画, 資料調査・地質調査(第1,2編) ・WG10 地盤環境調査(第12編) ・WG11 動的コーン貫入試験方法基準化WG ・WG12 地盤調査-基本と手引-」改訂編集WG ・WG13 水圧破砕による初期地圧測定法の基準化検討WG ・WG14単孔を利用した地下水流向流速測定方法の新規基準化WG	利藤 房男 斉藤 秀樹 正垣 孝晴 中村 裕昭 大島 昭彦 大島 昭彦 三嶋 信雄 上野 将司 江種 伸之 長田 昌彦 稲垣 秀輝 大島 昭彦 日比 義彦 伊藤 高敏 進士 喜英	8/5, 11/5, 3/5 10/3 8/ 5, 9/ 2, 9/9 校正会 4/19 4/23, 5/27, 10/3
地盤設計・施工基準委員会 ・WG1 土構造物 ・WG2 杭の水平載荷試験 ・WG3 グラウンドアンカー ・WG4 サンドコンパクションパイル工法 ・WG5 地山補強土	木幡 行宏 本城 勇介 中井 正一 山田 浩 寺師 昌明 龍岡 文夫	
地盤工学表記法 ・WG-A	大島 昭彦	4/11, 6/14, 8/ 7, 10/17
技能試験実施委員会	日置 和昭	4/11

5. その他

- 1) 理事会(平成25年 5月 13日(月))への審議事項・報告事項
- 2) 総務部会(平成25年 6月 4日(火)開催予定)への提案事項
- 3) 次回以降の部会開催日
 - ・ 25年度第5回: 平成 26年 1月 22日(水) 14:00時～
(対応理事会 H26.1.31 or H26.2.19)
 - ・ 25年度第6回: 平成 26年 3月 日() :00時～
(対応理事会 H26.3.14 or H26.4.23)

★ 平成25年度 理事会・運営連絡会議 開催日程(予定含む)

◎理事会

- ① 4月24日(金) ※書面審議

- ② 5月13日(月)
- ★ 6月13日(木) 総会/理事会
- ③ 6月20日(木) ※書面審議
- ④ 7月19日(金)
- ⑤ 9月27日(金)
- ⑥ 10月23日(水) ※書面審議
- ⑦ 11月29日(金)
- ⑧ 12月18日(水) ※書面審議
- ⑨ 1月31日(金)
- ⑩ 2月19日(水) ※書面審議
- ⑪ 3月14日(金)

-
- ⑫ 4月23日(水) ※書面審議
 - ⑬ 5月16日(金)
 - ★ 6月12日(木) 総会/理事会